

献血によくある質問

Q.1 献血の際に病気に感染することはないの？

A 病気に感染することは絶対にありません。

献血をする時に使用される針や血液バッグは、献血者一人ごとに新しいものと交換されますので、他の献血者から肝炎やエイズなどの病気に感染することは絶対にありません。

Q.2 薬を服用していても献血できるの？

A お薬によっては献血にご協力いただけます。

病気の種類や薬の種類によって献血をご遠慮いただくことがあります。しかし、ビタミン剤（サプリメント等）及びごく一般的な胃腸薬「保健薬」の類については、内服していても特に支障のない薬です。また、医師の処方による薬の服用や、外用薬・座薬・点眼点鼻薬等については、献血者が治療中であると考えられた場合に献血者自身の健康を考慮し、献血をご遠慮いただく場合があります。

Q.3 血液は十分足りているの？

A 季節又は血液型によって不足が生じることがあります。

医療機関で使用する血液量は年間を通じ一定であるのに対し、献血のご協力には季節的な変動があるため、一時的に血液が不足することがあります。なお、平日の成分献血は仕事、学校等でお忙しく献血にご協力いただける方が少なく、大変困っています。血液は長期保存が出来ないため、定期的な献血のご協力をお願いします。

Q.4 400mL献血をしても大丈夫なの？

A 採血基準を満たしていれば大丈夫です。

人の体内の血液量は個人差はありますが、男性で体重の約8%（60kgで4,800mL）女性は約7%（体重50kgで3,500mL）といわれています。医学的には、通常は体内の約15%以内が失われても、身体上の問題はありません。そして医療機関からの需要も副作用発生のリスクを抑える400mL献血製剤が90%以上を占めています。

Q.5 輸血に使用できなかった血液はどうなるの？

A 研究用などに有効的に活用させていただいています。

各種検査で基準を満たさない血液や、有効期限を過ぎた血液は、日本赤十字社が輸血の有効性、安全性の向上のための研究や安全な輸血のための検査試薬製造等に有効に活用させていただくことがあります。さらに、国の指導の下、日本赤十字社と他の研究機関と共同で医療の発展に寄与することを目的とし使用させていただいています。しかし、残念ながら上記以外の血液は感染性の医療廃棄物として適切な管理のもと廃棄しています。このように廃棄される血液を最小限にすることも血液センターの重要な役割です。



主 な 献 血 基 準					
		400mL献血	200mL献血	血漿成分献血	血小板成分献血
年 齢		18～69歳※	16～69歳※	18～69歳※	18～54歳
体 重	男性	50kg以上		45kg以上	
	女性			40kg以上	
年間献血回数	男性	3回以内	6回以内	血小板成分献血1回を2回分に換算して血漿成分献血と合計で24回以内	
	女性	2回以内	4回以内		
年間総献血量		200mLと400mL献血をあわせて 男性1200mL以内、女性800mL以内			

※65歳以上の献血については、献血される方の健康を考え、60～64歳の間に献血経験がある方に限ります

献 血 の 間 隔				
今 回 の 献 血 種 類				
	400mL献血	200mL献血	血漿成分献血	血小板成分献血
次 回 の 献 血 は	400mL献血	男性12週間後 女性16週間後	男女とも 4週間後	男女とも2週間後
	200mL献血			
	血漿成分献血	男女とも		
	血小板成分献血	8週間後		

平成21年度 献血キャンペーン

「愛の血液
助け合い運動」
平成21年 7月 1日(水)
～ 7月31日(金)

「クリスマス献血」
平成21年12月 1日(火)
～12月31日(木)

「はたちの献血」
平成22年 1月 1日(金)
～ 2月28日(日)